令和４年度 授業エキスパートを目指す授業研究会　令和4年１１月１１日（金）

県立栗橋北彩高等学校

国語：古典（協調学習）【第２学年】「枕草子」

課題

「雪のいと高う降りたるを」の中で、清少納言は「この宮の人には、さべきなめりう（中宮定子にお仕えする人としては、ふさわしい人であるようだ）。」と人々に評価されているが、「この宮の人」（中宮定子にお仕えする人）としてふさわしいのは一体どんな人なのだろうか。

エキスパートＡ

中宮定子が満足してお笑いになり、人々が評価した清少納言の姿とはどのようなものか。「雪のいと高う降りたるを」の中から読み取ってみよう。

エキスパートＢ

中宮定子が仕えている女房たちに求めていたのはどのようなことか。『枕草子』の他の記述から読み取ってみよう。（「清涼殿の丑寅の隅の」から中宮定子たちが女房たちに古い和歌を書かせる場面）

エキスパートＣ

「雪のいと高う降りたるを」の中で、中宮定子は白居易の漢詩の詩句を引用しているが、定子や女房たちと漢文の関わりは、どのようなものであったか。資料から読み取ってみよう。（『栄花物語』巻第３、『大鏡』道隆などの資料から）

参会者の声　～「授業参観を通して」～

○知識構成型ジグソー法による授業をしたことがなく、実際に自分の授業で取り入れたいと思い参加した。高校の授業を実際に拝見することで、中学校での課題を見出すことに役立った。

○知識構成型ジグソー法に関しては、自分自身も試行錯誤しながら実践をしている中で、モデル授業として自身との対比ができ、参考になった。

○自身が受けもっている生徒たちと似ている部分が多く、自分事として考えることができ、参考になった。

○高校での授業を拝見するのは初めてだったので参考になった。高校生の学びの姿から、そこに接続していく中学校の在り方を考えさせられた。

○中学校の授業とは違う雰囲気の中で、自発的な活動が多く求められる授業展開は、とても新鮮で勉強になった。

○小学校・中学校・高校のつながりが少し見えた。卒業した生徒たちがどのような学びをするのかが分かり、大変貴重な時間だった。話すことや意見をもつことへの苦手意識を軽減できるよう知

識構成型ジグソー法を取り入れたり、見通しの共有をしたりして生徒の学びへの意欲をもたせていけるようにしたい。

参会者の声　～「研究協議を通して」～

〇生徒の様子、問いの手順、指示の方法に対して、自分が考えていたものとは異なる視点を協議でき、自身の考えの視野を広げることができた。
〇知識構成型ジグソー法に対する理解が深まり、書くことにとらわれずに話合いの中で気付くことの重要性を再認識できた。
〇課題や改善点について、様々な意見を共有することで視野や手法のイメージが広がった。
〇自分とは違った視点や他の先生方の指導法など、多くの学びを得ることができ、今後実践していきたいと思った。
〇自分たちが協議として行っている対話と同じように、生徒たちを導いていけるかを考えることができ、参考になった。
〇多くの先生方の意見、考えを聞くことができ、新しい発見や気付きを得ることができた。

【指導講評】

一般社団法人　教育環境デザイン研究所
CoREF プロジェクト推進部門　主任研究員　飯窪　真也　様

・実現したいのは「対話を通じた学び」。発表をし合うというよりも、話しながら考えがまとまっていくというイメージ。「不安だから書かないと伝えられない」「書くのも速くない」という実態があれば、エキスパート活動の内容を精選することや、皆さんから協議で出された意見のように、関係する文脈にラインを引き、対話を促すという程度にしてもよかった。
・文脈から抜き出せば回答できるものと、考えなければ見えてこない問題がある。エキスパートＢの①～③の問いは、文脈から抜き出せたが、④の問いは考えなければ答えが見えてこないものだった。④は考える問いだということを明確にしてから、エキスパート活動をさせる方法もあった。
・書くことが苦手な生徒ほど、対話をしながら考えられるとよい。個で活動を進める前に、課題は何か、どのように考えればよいかをペアやグループ内で先に対話をとおして伝え合って、見通しをもたせてもよい。例えば、「書く時間はあとで２分とる」ことを伝え、対話をする時間と書く時間のメリハリをもたせることもできる。